

## 「学校改善事業」における技術室での取り組み

技術長 茂木貴之

本事業は、第5期中期目標に定める「学生等に対するサービスの提供や教職員の負担軽減及び業務効率化の観点から、デジタル・トランスフォーメーションの活用等に取り組む。」に資するため、業務のデジタル化による効率化を行い、競争力の向上、生産性向上、国民に対するサービスの向上を目指すことによる学校改善の推進を目的とする。

### 1. 目的および背景

学校経営戦略の観点から、高額機器等を研究資産と位置づけ、教育・研究・地域連携へつなげる全学体制の整備が求められている。そこで技術職員が研究資産を扱うスキルを習得し、①学科横断的な授業支援、②効率的な研究支援、③外部資金獲得の体制を構築する。これにより、研究資産の共用を促進するマインドセットの醸成を図る。

### 2. 取組内容

技術職員のスキル偏在や人員不足を解消するため、学科の枠を超え専門性を最大化する体制へ変革する。具体的には、西九州テクノコンソーシアム会員企業と連携し実践的スキルを習得。そのノウハウをデジタル化・共有し、属人化解消と授業支援（デジタル教材化）への展開を図る。併せて学生へのコンピテンシー評価で教育効果を検証し、研究資産の継続的な活用体制の構築と、技術職員の視座・視野・視点の涵養を促す。

### 3. 取組における成果

3D プリンターの導入・案内（動画像教材を提供）他 10 テーマの教材を作成し、実験前後のアンケート調査において、コンピテンシー評価によるデジタル教材の有効性評価が70%以上の項目で改善した。

作成した教材については次項より紹介する。